

# 2024年度 事業報告書

2024年4月1日～2025年3月31日

学校法人武田学園  
専門学校ビーマックス

## I. 学校の概要

### 1. 学校の教育方針

- 就職内定獲得を最終目標とせず、社会で活躍する人財になることを最終目標と見据えて指導を行う
- 夢をかなえるためのカウンセリングと個性に応じた指導を行う  
→PSA パーソナリティ診断（気質・性格診断）、個人・三者面談の随時実施
- 困難な状況でも、折れない、諦めない心を養う指導を行う  
→レジリエンス向上プログラム
- 「やり方（テクニック）」習得に偏重せず、「あり方（どうあるべきか）」を心掛けるように促す指導も行う
- コミュニケーション力と問題発見力、問題解決力を身につけるための指導を行う  
→挨拶、掃除の精度向上、学友会活動等（＝学生同士で討論できる機会の提供）
- 自律する力、自ら考える力、行動する力、感謝する心を養う指導を行う  
＝ 教え過ぎない、与え過ぎない  
→セルフマネジメント、履修状況報告書
- 基礎的な学力向上・体力向上に向き合う指導を行う  
→基礎学力向上プログラム、全学科共通で目指す資格（ビジネス能力検定、漢字能力検定、MOS）、トレーニングジム〈ミライアス〉の有効活用、部活動の推進
- 実践型・体験型プログラムを通して実践力を身に付けられるように指導する  
→インターンシップ、社会貢献プログラム、ヒューマンスキルプログラム

### 2. 学校法人の沿革

1978年	個人立 『経理学校 岡山会計学館』を設立
1981年	『岡山会計学館経理専門学校』として専修学校認可
1985年	ビジネス本科に県下唯一の公務員ビジネスコース設置
1989年	学校法人武田学園設立認可
1995年	専門士認定校に指定
1997年	校名を『専門学校ビーマックス』へ変更
2001年	文部科学省「専修学校 IT フロンティア教育推進事業」研究校
同年	心の知性教育をベースとした「ヒューマンスキルプログラム」を開始
2002年	文部科学省「専修学校社会人キャリアアップ教育推進事業」研究校
2003年	文部科学省「専修学校先進的教育研究開発事業・学生ケアシステム化」研究校
2009年	生涯学習センター開設
2010年	キャリア支援センター開設
2017年	トレーニングジム〈ミライアス〉開設
2023年	キャリアサロン 1F〈ザ・ロビー〉開設
2025年	国際情報館 1F エアライン設備（名称検討中） 開設

### 3. 設置する学科・コースと総定員（2025年4月1日現在）

学科	コース・専攻	修業年限	総定員	性別
エアライン	エアライン	2年	40	男女
ブライダル・ホテル	ブライダル・ホテル	2年	40	男女
公務員	公務員ビジネス	2年	120	男女
	公務員	1年	20	男女

4. 学生数の状況について（2025年5月1日現在）

学科	コース・専攻	1年	2年	計
エアライン	エアライン	13	17	30
ブライダル・ホテル	ブライダル・ホテル	17	25	42
公務員	公務員ビジネス	40	28	68
	公務員	15	-	15
計		85	70	155

5. 役員・評議員の概要（2025年4月1日現在）

理事：7名

監事：2名

評議員：10名

6. 役員名簿（2025年4月1日現在）

- 理事長 武田 結幸
- 理事 武田 知子
- 理事 坂上 弘次
- 理事 岩城 孝男 外部
- 理事 上月 健輔 外部
- 理事 逢沢 一郎 外部
- 理事 佐々木 公之 外部
- 監事 那須 照正 外部
- 監事 平松 俊男 外部

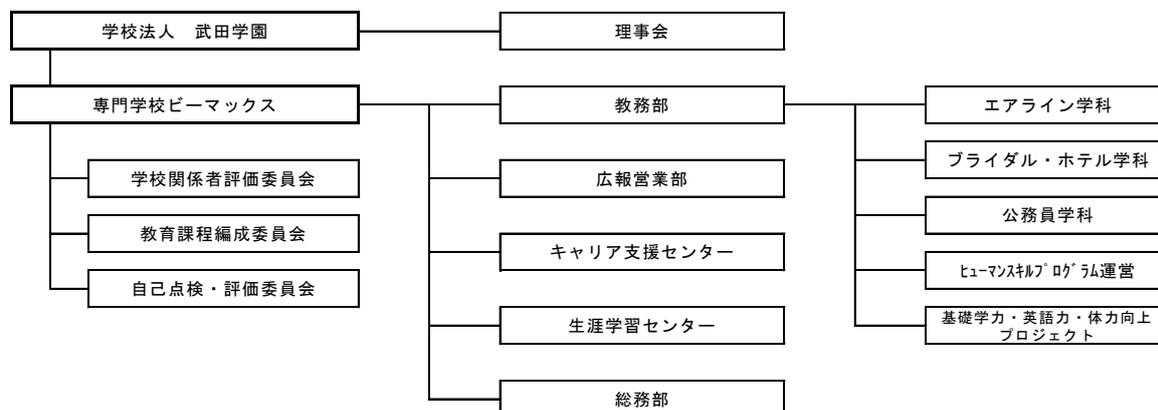
6. 教職員の概要（2025年4月1日現在）

教職員：18名

講師：18名

7. 組織図

II 事業の概要



## 1. 学習について

### (1) 概要

- 2024年度は5年ぶりに新入生の宿泊研修を復活させる等、学生が体験・経験を積める機会を学内外でさらに増やしていった。痛感したのは、一度途切れた流れを再度作ることの大変さであった。集団行動を行うたびに、小さな問題が頻発した。改めて継続し続けることの重要性を感じる一年であった。個の大切さ、自分らしさの追求が重要視される中で、周囲の目や感情にも気を配ることができる、利他の精神を持った人材を輩出していくことが重要である。
- 2024年度のエアライン学科1年生のインターンシップは、9月に空港内での座学研修期間が加わり12月中旬までの約3ヶ月間半行かせて頂いた。また11月から高松空港及び広島空港でもインターンシップ希望者を受け入れて頂き、岡山空港ではANA、高松・広島空港ではJALの業務を経験させて頂いた。一方、インターンシップが長期にわたる中で、モチベーションや体調管理、マナーなどインターンシップに臨む姿勢がより問われる。企業の方々に学生の様子をこまめにお尋ねし、学生への声掛けをより一層丁寧に行う必要がある。
- エアライン学科では入学してから1年間のうちに4回以上TOEIC(L&R)を受験する機会を設けている。入学時点でのレベルに差があるため、習熟度に合わせてクラスを分け授業や補習を行っている。エアライン学科1年生17名の全体の成績としては、1年間で平均117点のスコアアップが計られ、最も伸びた者は270点のスコアアップを記録した。就職活動までの期間が短く、留学のカリキュラムも設けていないが、コンスタントに学習を重ねることで、地方の専門学校での十分スコアアップが可能であり、自信を持って就職活動に挑めている。
- エアライン学科では、2023年度より観光にまつわる授業として「国内旅程管理主任研修」を導入。今年もエアライン学科1年生は、座学及び実地研修をふまえて、旅程管理主任者(ツアーコンダクター)になれる資格を取得する権利を得ることができた。また「ツアープランニング」という授業でも県内外のさまざまなところを巡っているが、2年生はその施設や場所の魅力をまとめたフライヤーを作り、学園祭で人気投票を行った。
- ブライダル・ホテル学科1年生は、2023年度に引き続き、本格的にインターンシップに赴く前の5~7月のうち約2ヶ月間、ANAクラウンプラザホテル岡山とTHE STYLEにて、ベッドメイキングや清掃、会場設営、料飲サービスとの現場実習をさせて頂いた。この特別実習を通じて、サービススタッフとしての基礎技術を身に付け、働くにあたっての心得やこれからのキャリア形成など幅広い視点で学ばせて頂いている。
- ブライダル・ホテル学科の1年生のインターンシップは、2024年度も9月から12月中旬までの約3か月半で実施できた(施設によっては、12月末までの4ヵ月)。県内はもとより兵庫、大阪、広島、京都、沖縄など県外の企業・施設でもお世話になった。また9名の学生がこの期間中に3社を経験。いろんな施設・企業を観ることで、就職活動の参考にしようとする意向もあると思われる。一方で、エアライン学科同様、インターンシップが長期にわたる中で、モチベーションや体調管理、マナーなど学生の姿勢が問われるケースもみられる。企業の方々に学生の様子をこまめにお尋ねし、学生へのフォローをより一層丁寧に行う必要がある。なお、2月のインターンシップ発表会には、25社が参加して下さり、厳しくも温かいご意見を多くたまわった(オンライン参加含む)。
- ブライダル・ホテル学科2年生は、2024年7月24日に「マグリット」にて模擬結婚式を中心としたイベントを実施した後、2025年2月1日に「ヴェルジェくらしき」にて本物の結婚式

をプロデュースさせて頂いた。本物の結婚式の挙行は2023年度に引き続き2年目。新郎新婦は在校生のおば夫妻。結婚式を挙げていなかったおば夫婦に、いつか自身が関わって式を挙げられたらという夢の実現をお手伝いする形になった。夫妻にもゲストにも小さなお子様が多く、「子どもたちの記憶に残る結婚式」をテーマに、学生たちがさまざまなアイデアを出し合って、子どもも大人も楽しく参加できる式をお届けできた。

- 2024年度、公務員ビジネスコース2年生・公務員コース1年生（1年課程）の学生は7月、公務員ビジネスコース1年生は3月に外部施設で1泊2日の勉強合宿を実施した。2019年以来、5年ぶりの開催となり、大勢と宿泊することに不慣れた学生達は行く前こそ乗り気ではない様子だったが、現地では前向きに学習に取り組み、良い思い出づくりも出来たようだった。また、学習の効果も高まり9月以降の公務員試験合格率の上昇に繋がった。
- 公務員学科で取得を目指すパソコンの資格を、2024年度よりMOS（Excel）からより実用的な内容が学べるコンピュータサービス技能検定に変更し1年生を対象に実施した。また、2年生には苦手な学生向けの基礎コース、得意な学生向けの発展コース、ITパスポートについて学べるコースの3コースからパソコン授業を選択させ、それぞれの実力や志向に合わせた授業展開を行った。さらに後期からは、毎朝タイピングの練習を行い、そのスピードと正確性を向上させた。
- 公務員学科で行った地域と関わる活動は複数あるが、特徴的なものを3つ取り上げる。1つ目は「造山古墳プロジェクト」。この活動も3年目に入り、岡山市の政策企画課及び福武教育文化振興財団の補助を頂いて、ボランティアガイドを行ったり、古墳グッズの作成・販売、気球を上げるイベントを行ったりした。2つ目は「農業プロジェクト」。玉島地区の農家さんたちのご協力のもと、桃の栽培や収穫、稲刈り作業に参加した。3つ目は「キッズビジネスパーク」。小学生向けのお仕事体験イベントで、2024年度は学生が出店企業の方々と共に、どのような内容を提供するのか数か月にわたり準備を重ね、当日のブース運営にも関わった。

## （2）資格・検定の取得状況について

A：卒業年次生（2025年3月31日現在）※退学者を含む場合もある

資格・検定名	国家資格	受験者数	合格者数
Microsoft Office Specialist Excel 2016		73	63
コンピュータサービス技能評価試験 表計算部門3級		10	10
コンピュータサービス技能評価試験 表計算部門2級		1	1
ビジネス能力検定ジョブパス 3級		83	83
ニュース時事能力検定 3級		25	10
国内旅程管理主任者資格		12	12
3級ブライダルコーディネーター技能検定	国家資格	24	16
ホテルビジネス実務検定試験 ベーシックレベル2級		25	22
マナー・プロトコール検定 3級		37	37
サービス介助士 集計		37	37

- ブライダル・ホテル学科 2 年生の学生ひとりが、2024 年度第 1 回ホテルビジネス実務検定試験 ベーシックレベル 2 級受験者約 1,600 名のうち、個人 9 位の成績で表彰して頂いた。

B：1 年生（2025 年 3 月 31 日現在）※公務員コースは卒業年次生を含む

資格・検定名	国家資格	受験者数	合格者数
コンピュータサービス技能評価試験 表計算部門 3 級		36	36
ビジネス能力検定ジョブパス 3 級 集計		52	47
国内旅程管理主任者資格 集計		17	17
マナー・プロトコル検定 3 級 集計		46	32

## 2. 卒業年次生の就職・内定状況について

◇コース別就職・内定者数一覧（2025 年 3 月 31 日現在）

コース	就職希望者数	就職・内定者数	学内編入	備考
エアライン	12	12	0	
ブライダル・ホテル	23	23	0	
公務員ビジネス	33	33	0	※合格退学の 2 名含む
公務員	21	21	1	※合格退学の 4 名含む
計	89	89	1	

- エアライン学科：12 名の学生のうち、航空業界を志望した 11 名全員が、関係企業から内定を頂いた。なお、ANA 沖縄空港株式会社様への就職は、本校の学生では初めてとなり、遠方ではあるが、ぜひこのご縁をつないでいきたい。一方、2025 年度より、企業によって設けられていた専門学校生の採用枠がなくなったり（大学生や社会人と同じ枠での採用になる）、採用方針・スケジュールに変化がみられたりしている。各企業の採用情報をしっかり収集し、教員・学生間で情報を共有したい。
- ブライダル・ホテル学科：卒業生 23 名は、ブライダル関連企業が 6 名、衣装・宝飾品販売企業が 3 名、飲食関連企業が 2 名、宿泊業が 5 名、他、照明・音響・映像、菓子製造販売、住宅、などさまざまな業種へと進み、個々の興味がそのまま多岐にわたる進路となった。長期のインターンシップをふまえて就職活動に挑むため、ブライダル・ホテル業界を目指す者もいれば、以外に進路を切り替える者もいる。業界の採用意欲は引き続き高く、インターンシップ中に企業より声を掛けられることも多い。
- 公務員学科の公務員採用試験合格率は、一次試験で 94.7%、最終合格率は 81.5%。2023 年度に引き続き高校生での現役合格が目立ったが、在校生も大いに健闘した。特に、面接試験における合格率は直近 5 年間の中では最も高く、卒業年次生の最終合格数は同在籍者数を超える数値となっている。体験学習やボランティア等に参加して経験を積んでいた学生の努力の成果ともいえるが、その一方で公務員試験受験者数の大幅な減少も背景にあると思われる。2024 年度は、県内はもとより、近隣府県の警察や消防、自治体、各省庁などから、例年以上に説明会やガイダンスを行いたいという依頼があり、日程調整の上、形式を検討しながら実施している。
- 公務員ビジネスコース 2 年生のうち 2 名と公務員コースのうち 4 名は、期の途中で採用

試験に合格したため、退学処理を行った。一方、公務員ビジネスコース1年生のうち8名が、1年目で採用試験に合格を頂き、一定の条件を満たしたため、公務員コースに編入し本校を卒業した。

### 3. 学生募集状況について

◇2025年度コース別入学者数一覧（2025年5月1日現在）

コース	出願者数	入学者数
エアライン	16	13
ブライダル・ホテル	19	17
公務員ビジネス	46	40
公務員	21	15
計	102	85

- すべての学科・コースにおいて、厳しい結果となった。
- エアライン学科：航空業界の回復とともに人気が復調したと期待していたが、オープンキャンパスの参加者数が横ばい、本校への入学者数は減少に転じた。明確に航空業界を目指していない層は大学へ進学し、航空業界を目指す層は、大阪など大都市の専門学校へ選んでいると思われる。また辞退した3名のうち2名は社会人。憧れを実現させたいとオープンキャンパスに参加する社会人は、年に数人おり、この2名も入学すると思われたが、残念ながら辞退となった。
- ブライダル・ホテル学科：中四国エリアでは数少ない人気分野ということで、他校でも募集は大いに順調と聞いている。本校では、残念ながら2年ぶりに定員未達となった。
- 公務員学科：オープンキャンパスの参加者数は直近5年で最も少なく、必然的に入学者数も伸び悩んだ。原因としては、公務員希望者数の減少、大学進学、高校生での現役合格（辞退者12名のうち9名がそれに該当）。そして不合格だった場合、民間企業への就職に切り替えているためと考えられる。そのため、秋以降のオープンキャンパスへの集客や出願が伸び悩んでしまう。一方、公務員を本気で目指している層には、本校の無料講座が昨年対比160%の集客だったこともあり、それがご縁で出願・入学になる例は増えている。

### 4. 生涯学習センターについて

生涯学習センターは、リカレント教育部門として、主に厚生労働省管轄の職業訓練及び生産性向上支援訓練を実施した。多様な講義を継続的に提供し、地域社会の職業能力開発に貢献した。

- 当センターが実施する職業訓練は、「営業・販売・事務分野」および「医療事務分野」に重点を置いている。また、昨今の社会情勢に鑑み、経済産業省が掲げる「DXリテラシー標準」に準拠したカリキュラムを幅広く導入した。共通科目である「デジタル活用基礎知識」においては、近年著しい発展を遂げている「生成AI」の活用方法およびコンプライアンスに関する最新情報をカリキュラムに組み込み、受講生へ提供した。
- 若年層訓練生の離職原因として、「仕事の内容および労働条件のミスマッチ」と「人間関係」が多く見られる。現状として、若年層における再就職は「選ばなければ」可能である「売り手市場」が継続している。しかしながら、習得した訓練内容の「使いどころ」が明確にならない傾向が見受けられた。この現状は、若年層のみならず全体的な傾向と同様であると考えられる。今

後のカリキュラム作成においては、訓練内容と実際の業務との結びつきをより明確にするための工夫が必要であると考え。国が目標とする長期雇用を達成するためには、訓練生が自身の「キャリア目標」を明確にできるよう、積極的な情報提供を行うことが、当センターの重要な責務であると認識している。

以上